論文内容要旨(甲)

論文題名　血液透析導入期のエリスロポエチン抵抗性指数と導入後の生命予後との関連

掲載雑誌名　昭和学士会雑誌　第79巻　第5号　2019年10月掲載予定

専攻名　内科系内科学（腎臓内科学分野）専攻　　森川　友喜

内容要旨

維持血液透析（hemodialysis：HD）患者におけるエリスロポエチン治療に対する低反応性は生命予後不良との関連が報告されているが，HD導入期での検討は行われていない．今回，2011年4月から2016年3月の間に当院でHD導入となった322例を登録，除外基準に基づいて最終的に154例を対象とする後向きコホート研究を行った．1週間当たりの遺伝子組み換えヒトエリスロポエチン量(rHuEPO)を体重(kg)とHb(g/dl)で割った値をエリスロポエチン抵抗性指数(erythropoietin resistance index:ERI)とし,ERIと各因子の相関,導入後の生命予後との関連について検討した．対象症例154例のうち,男性は112例,HD導入時年齢の中央値は68(61-76)歳，観察期間の中央値は1204（846-1839）日であった．ERIと各因子との相関を評価したところ，ERIはHD導入時年齢，性別(女性)と有意な正の相関,血清鉄値,血清トランスフェリン飽和度（transferrin saturation：TSAT)， body mass index（BMI)，血清アルブミン値と有意な負の相関を認めた． ERIとの関連が報告されている因子についての重回帰分析では,性別(女性)，フェリチンと有意な正の相関，TSAT，BMIが有意な負の相関を認めた．HD導入後の死亡は25例　（感染症8例，心疾患2例，その他15例）であり,Cox比例ハザードモデルを用いて単変量解析を行ったところ,ERIは全死亡リスク(ハザード比 1.07,95%CI 1.036-1.093, p＜0.0001)と有意に関連した．多変量解析においても,ERI(ハザード比1.004, 95%CI 1.006-1.072, p=0.019)は,HD導入時年齢，カテーテル導入，血清CRP値と共に全死亡リスクと有意に関連した． HD導入期のERI高値は生命予後不良と関連することが示唆された．